

教育会だより No.6

第378回 諏訪季節大学会

お茶の水女子大学名誉教授

藤原正彦 先生 講演会

演題「これからの日本」

期日 令和4年10月19日(水)15:00～

場所 岡谷カノラホール



感染症対策を十分にし、一般の方にも参加を呼びかけ、第378回諏訪季節大学会が開催されました。藤原正彦先生を講師にお迎えし、「これからの日本」というテーマでご講演いただきました。諏訪にゆかりがあり、数学者であり、エッセイストとしてのこれまでのご経験から、信念を持って語られる一つひとつの言葉に考えさせられました。コロナ禍で、参集しての研修の機会が減っている中で、著名人から直接お話を聞くことができた貴重な機会となりました。

【先生方からの感想】

- ・藤原正彦先生のお話はすごく興味深く、「これからの日本」について様々な面からお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。有意義な時間でした。
- ・お話を聞いて、自分の価値観だけにとらわれずに、様々な考え方のお話を聞けて、もっと柔軟な考えをもてるようになりたいと思いました。貴重なお話をうかがえてよかったです。
- ・藤原先生のお話はとても楽しく思い当たることに頷きながら拝聴しました。読書をこれからも大切にします。
- ・藤原先生のお話がとても興味深く、楽しかったです。背中を押してもらって、元気の出るお話でした。話の上手な講師の先生を、これからもお願いします。
- ・講演の内容がわかりやすく、また濃くて大変参考になりました。現在の日本が抱える課題や問題点が見事に浮き彫りになっていて、それを解決する方法まで丁寧に説明いただき感謝しかありません。家庭教育として、大勢の保護者の方に聞いていただくようにできるといいなあと思いました。
- ・数学者である藤原先生が「情緒の豊かさ」に重きを置いていることに驚くと共に、知識偏重的な教育ではなくて「人としてどうあるべきか」を大切にすべきであることに改めて気付かされ共感を覚えました。
- ・藤原先生のお話は楽しく、あっという間の時間でした。「惻隱の情」という言葉の意味を考えながら過ごしていきたいと感じました。
- ・藤原先生のお話はユーモアがあり、考えさせられる内容で、大変勉強になりました。
- ・30代の頃に読んだ『国家の品格』。今回お話を拝聴しながら、自分の考えの一部を形成していることを感じました。20代、30代の頃の読書は、自分に影響を与えることを感じとてもよい機会となりました。
- ・エピソードの一つ一つがこれからの社会を見据えるときに思い出したいものばかりでした。また、諏訪への愛を語る先生の姿を拝見して、この土地に関わることができていることがとてもうれしいことだと感じました。

第4回社員総会 10月28日(金)

【溝口教育会長あいさつ(一部抜粋)】

社員の先生方には、諏訪季節大学会の係を請け負っていただき、計画通り催すことができた。とてもよい講演だったという声が多く聞かれた。ご自身の教育実践にどう生かすか考える機会となればよかったと思う。

研修に関しては、霧ヶ峰自然観察会が行われた後、急にコロナの感染警戒レベルがあがり、できなかったものが多く残念だった。10月1日と14日の「赤彦祭」については、1日の「碑前祭」には、会長、副会長と幹事長で参加。14日の「赤彦の歌に親しむ集い」はここ会議室で行われた。約50名が参加し、歌を身近に感じて同じグループの方に熱く語っている先生が多くよい会になった。



- 【協議】(1) 令和4年度 諏訪教育会事業等中間報告
各部中間事業報告 中間会計報告
(2) 諏訪の子どもや教育を語る会について
(3) 教職員バスケットボール大会について
- 【連絡】(1) 信教関係(教育実践賞の応募について)
(2) 令和5年度諏訪教育会定期総集会について
(3) 第5回社員総会について



社員の皆さんからの意見・要望

研修部の活動に関わり紙工作の研修に参加された先生の感想を紹介したい・・・D先生:「毎年テーマを決めて参加している。私は時間内に完成しなかったが、この後どうしたらいいのかも教えてください、夏休み中に完成させることができた。講師の鈴木先生にいろいろなことを教えていただけたので、来年は「こんなものを作りたい」と創作意欲がわいてくる。夢中になって取り組めて、完成すると達成感がある。学習が苦手だったり、教室に入りにくかったりする生徒たちと取り組めるといいかと思うので、自己研鑽を重ねていきたい。」

先生方は、ご自分の研鑽というだけでなく、子どもたちの活動にも活かしていけるのではという貴重な体験をされている。ぜひ、このような機会をたくさん設けていただきたい。

川岸小学校3年生が9月に社会科見学の諏訪巡りで教育会館と博物館を利用した。利用方法としては、一クラスは大会議室で昼食を食べ、もうクラスの半分は担任引率で博物館の見学、もう半分は博物館の別室で齊藤先生が講師になっていただき、和紙人形のついたカレンダー作りを行った。和紙を使って物を作る機会は少ないので、よい経験になった。当日は雨が降っていたが、博物館・会館を利用することができ、雨もしのぐことができ大変ありがたかった。博物館の見学では、なかなか今は見ることができなくなった諏訪地方に生息する小動物の剥製に興味をもち、その生態についての説明をメモしていた。今回、会館や博物館を学校で利用できるということを初めて知り、子ども達も先生方も大変喜んでいました。また来年も機会があったら利用を勧めたいと思う。

諏訪地区児童生徒絵画作品展



12月3日(土)まで
諏訪教育博物館
子ども達の力作が展示されています。
どうぞご覧ください。

教職員作品展



12月12日(月)まで
教育会館内
廊下や階段に先生方のすてきな作品が展示されています。

赤彦祭

「碑前祭」(10月1日)



赤彦の歌碑(富士見町)

今年もコロナ禍のため、この日は「碑前祭」のみが行われました。赤彦研究会名誉会長である小口明先生のお話を伺い、富士見町教育長の挨拶、献花、赤彦短歌献吟、小中学生及び一般短歌入選者表彰、入賞歌朗詠が行われました。

「赤彦の歌に親しむ集い」(10月14日)

赤彦研究会名誉会長 小口明先生、赤彦研究会元会長 行田喜信先生を講師としてお招きし、約50名の参加を得て「赤彦の歌に親しむ集い」を実施しました。参加者はグループに分かれ、赤彦の歌(担任した子どもたちとの歌、諏訪湖の情景の歌、さまざまな山の歌等)についてグループワークを行いました。



小口明先生によるご講評

最後に、小口明先生から次の講評をいただきました。

「参加されたどの先生も「島木赤彦百首選」にとらわれず、自分で「これ」だと思う歌を選び、その意味まで語られたこと、歌に自分の人生を反映させ、そこをしっかりとらえて語っていることがよかったです。先生方のセンスを感じた。」